

神奈川県立

精神医療センター

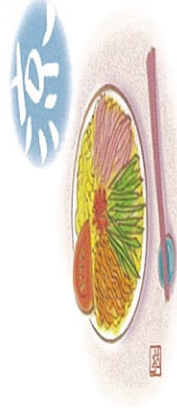
NEWS

No.4

2016年7月発行



地域医療連携室、始めました！



平成28年4月1日、精神医療センターに地域医療連携室が開室しました。現在、患者、家族の方が安心して医療が受けられるよう地域との連携のための活動準備をしています。スタッフのメンバー構成は、医師3名、看護師3名、精神保健福祉士1名、事務職員1名、計8名（内、専任スタッフは精神保健福祉士1名、看護師1名）です。

近年、精神科病院における、長期入院患者の地域移行支援が始まり、精神医療は、入院中心型医療から地域完結型医療に変革しようとしています。

地域医療連携室では、患者さんの「その人らしい生活ができる」を目標に、入院患者さんが地域で幸せな生活ができることを見据えた社会復帰支援を行いたいと考えています。そのために、当部署の役割は「当センターと地域とを繋ぐパイプ役」と考え、患者さん、ご家族、地域のニーズを知り、また、地域・関係機関と良い関係を保てるよう連携します。

できたばかりの部署ですが皆様と歩んで参りたいと思います。



地域医療連携室
遠藤・中居
内線：1136

Contents

- 地連はじまりました
- DPATについて
- 院内販売について
- 外構工事おわかりました
- 公開講座のおしらせ

精神医療センター基本理念

私たちは、こころの健康を支え、質の高い精神医療を提供します

「かながわDPAT」による熊本派遣について

4月14日に最初の震度7を記録した熊本地震は、各地に大きな被害をもたらしました。

これに対し、被災地支援のため、全国の41の自治体からDPAT※230チームが現地入りしました。そして、当センターも「かながわDPAT」として、初めて医師等を現地に派遣しました。その活動状況等は次のとおりです。

※DPATとは…被災地に対する精神科医療の提供と精神保健活動の支援を行うことを目的に、国が主導し、県により組織される災害派遣医療チームのこと。

■ 概要

- 派遣人数 5名
(医師1、看護師1、精神保健福祉士1、事務2)
- 派遣期間 7日間
(平成28年4月21日～27日)



■ 主な活動内容

熊本市東区にある熊本県精神保健福祉センターに置かれた、DPAT活動拠点本部において、他の自治体から派遣されたチームの派遣調整を行いました。

なお、23日は阿蘇地区の避難所調査、24日には大津地区の避難所の巡回を行いました。



■ 院内展示のお知らせ

今回の熊本派遣について、近く院内で展示を行う予定です。日程等はホームページでお伝えします。

■ 参考

熊本市内の医療機関の状況（発災約1週間後の4/19,20時点）とDPATの対応など

- 診療所：予約外新患の診察時間の確保と処方に苦慮されていました。
- 病院：被災した病院からの患者の受け入れにより、新規患者の受け入れが難しい状況が発生していました。
- DPATの対応と課題

DPATの派遣は基本的には災害対策基本法に基づいて行われ、今回、被災した病院の患者搬送や避難所の巡回及びその対応などを行っています。

被災地域の医療機関との連携体制のあり方については、今後の課題です。

患者さんの社会復帰を目指す

就労継続支援B型作業所による

院内パン販売とセンター患者の受け入れについて



○外来ホールにおけるパン販売

- ・精神医療センターの外来ホールでは、月に2度、就労継続支援B型作業所が工房・サンライズのパンとカレーの店「ぶらさんぬ」による院内販売が行われています。そして、販売日は多くの患者さんやその家族、職員で賑わっています。
- ・ところで、こうしたパンの製造販売に、当センターの患者さまが参加していることをご存知ですか。
- ・今回は「ぶらさんぬ」代表の大平由子様を浅岡医事課長が訪ね、製造現場の見学と、インタビューを行いました。



○インタビューの内容

1 パンの製造について

浅岡：こんにちは。私たちが食べるパンはここで作られているんですね。

大平：精神医療センターの販売日は、朝の6時半に製造が始まります。パン作りは立ち仕事で、沢山の洗い物もあり簡単な仕事ではないと思います。

2 コンセプト

浅岡：事業のコンセプトを伺えますか。

大平：まずは、「働いて稼ごう」ということです。障害を持つ方が、働きながら体調管理など、生活のリズムを整えることです。それと、「おいしくないと売れない」ということです。パンは専門家の指導を月に数回受けています。カレーもコンテストへの出場や、ミシュランのシェフとコラボするなどの味の追及が欠かせません。

3 精神医療センターの患者の受け入れ

浅岡：ところで、ここでは障害を持つ40名前後の方々が働いていて、その中には当センターの患者さまもいるそうですが、何名位になりますか。

大平：正確には調べないと分かりませんが、3～4割程でしょうか。

浅岡：えっ、そんなに多いのですか。恥ずかしながら私は知りませんでした。

4 働く方の症状が悪化したとき

浅岡：病状によって途中から働けなくなる方もあると思います。そのような場合、どのようにされているのですか。

大平：中には再入院される方もいます。その場合、病院のスタッフや本人、家族を含めたカンファレンスを行い、無理なく復帰できる方法を検討します。業務をパン作りから座って作業を行える内職に変えることもあります。

5 スタッフの喜びと目指すところ

浅岡：ご苦労に頭が下がります。大平様やスタッフを動かす原動力は何ですか。

大平：「売れることの喜び」です。つまり、沢山パンが売れば、高い賃金を払うことができます。その結果、将来的には、生活保護や親の仕送り等を受けず、自立した生活が出来るようになればと考えています。「心の病」を正しく理解し、障害があっても、仲間や地域の理解があれば普通に生活が出来る街づくりを、栄区を拠点に行っています。



○取材を終えて感じたこと

- ・今回のインタビューは、代表の大平様から、やさしい言葉と厳しい言葉が交互に発せられ、プロ意識の高さを見た気がしました。
- ・また今回の取材を通じ、当センターが皆様のお役に立つため、もっと地域や患者さんに目を向け、様々な厳しさに正面から向き合う必要があると感じました。

外構工事が完了しました

28年3月31日に園庭や駐車場等の外構工事が完了しました。

開放的な園庭で歓談したり、花や草木を眺めたりなどさまざまな楽しみ方ができるようになっています。



植樹したブドウに実がつかまりました。今後の成長が楽しみです。

● 公開講座のお知らせ

神奈川県立精神医療センターでは様々な精神医療に関わる公開講座を開催しています。
ご興味・ご関心のある方は奮ってご参加ください。

開催日時	研修テーマ	募集人数	参加条件		参加費
			対象者の条件	※新人の参加	
平成29年1月12日(木) 17:30～18:30	精神科における 家族支援	約20名	テーマに関心のある 看護師	可	資料代500円
平成28年10月13日(木) 17:30～18:30	精神疾患を抱える方の 退院調整	約20名	テーマに関心のある 看護師(初心者向け)	可	資料代500円
平成28年11月10日(木) 17:30～18:30	イレウスの予防と 早期発見の看護ケア	約20名	テーマに関心のある 看護師 (初心者～中堅者向け)	可	資料代500円
平成28年12月8日(木) 17:30～18:30	思春期精神看護で 学んだこと	約20名	テーマに関心のある 看護師 (初心者～中堅者向け)	可	資料代500円

申込方法：ファックスまたはメール

申込期限：各研修とも1週間前まで

お問合せ・申込先 電話：045-822-0241

ファックス：045-822-0242

メール：saitou.16004@kanagawa-pho.jp

担当者：看護教育科 齋藤奈津紀／佐藤光年



地方独立行政法人神奈川県立病院機構
神奈川県立精神医療センター

〒233-0006 横浜市長南区芹が谷2-5-1
TEL 045-822-0241(代) FAX 045-822-0242
http://seishin.kanagawa-pho.jp/